

■高島素之 社会思想家。国家社会主義に転じて理論的指導者となり，独力で「資本論」全巻初の完訳を成し遂げ，早世。

たかばたけもとゆき

帝国大学始・1886＝ 群馬県前橋で，旧前橋藩の家老格という名家の五男に生まれる。

帝国憲法発布1889＝ 3歳：

日清戦争始・1894＝ 8歳：

日清戦争終・1895＝ 9歳：

Bushidou・・1899＝13歳：前橋中学に入学，井上日召と同級，

前橋教会に通って受洗して，“聖人”と渾名される一方，校友会誌{坂東太郎}の幹事として健筆を振り，週刊{平民新聞}を購読して社会主義にも関心を抱く。

日露戦争始・1904＝18歳：同志社神学校に給費生として入学したが，京都社会主義談話会を組織などして，

日露戦争終・1905＝19歳：

キリスト教に疑問を抱くようになり，

韓国反日暴動1907＝21歳：中退を命じられ，帰郷。

アラビヤ創刊・1908＝22歳：社会主義雑誌{東北評論}を発刊したが，筆禍にあい，入獄。

獄中で英訳の「資本論」を読み，

大逆事件判決1911＝25歳：上京して，堀利彦の{売文社}に入る。

明治天皇没・1912＝26歳：

大正政変・・1913＝27歳：

21ヶ条要求・1915＝29歳：*堀・山川均らと{新社会}を発行。その中心的論客として，カウツキーの「資本論解説」を連載するなど，マルクス主義を紹介，大正期の社会主義運動をリードし，

ロシア革命・1917＝31歳：ロシア革命の実態を最も早く日本に伝えたが，そこに問題を見出し，

本格政党内閣1918＝32歳：老社会に加入して{大衆社}を創立，国家社会主義を唱えはじめ，山川と論争，

ベルサイユ条約・1919＝33歳：*堀・山川らと訣別。雑誌{国家社会主義}{大衆運動}{局外}{週刊日本}{急進}など次々と発刊し，国家社会主義の理論的指導者となる。「資本論」の完訳に着手，ドイツ語は独習で，1日13時間労働の悪戦苦闘，

原敬首相暗殺1921＝35歳：

水平社結成・1922＝36歳：「幻滅者の社会観」。上杉慎吉と提携して，{急進国家主義経綸学盟}を結成。

護憲三派圧勝1924＝38歳：*遂に独力で初の完訳「資本論」3巻刊行。出版記念会にはマルクス主義者は一人も出席せず，辻潤・小川未明・上杉慎吉など左右両翼始め，日ごろ批判してきた吉野作造まで出席して感動。戦前における唯一の全訳書として多くの読者を得る。以後，さらに国家主義的傾向をつよめ，右翼反動団体<大化会>顧問となり，赤尾敏の建国会を後援し，反社会主義評論を多数発表し，

金融恐慌・・1927＝41歳：「論・想・談」「マルキシズムと国家主義」，

共産党事件・1928＝42歳：「批判マルクス主義」。胃癌のため没した。